

Gift of Life



兵庫腎疾患対策協会会報

<https://hyojinkyo.org>

Vol. 33 JUNE 2025

発行：兵庫腎疾患対策協会 〒658-0046 神戸市東灘区御影本町 2 丁目 11-10 坂井瑠実クリニック内
TEL : 078-822-8111 FAX : 078-822-8112

意思表示について

兵庫腎疾患対策協会 会長

吉永和正

写真のカードをご存じですか？私がカードケースの中にいれて常時持ち歩いているものです。裏面には1997年10月16日の日付で私の意思表示と署名がされています。この日付は日本臓器移植ネットワークが発足した日です。

この可愛らしいデザインのカードが最初に発表されたのは、1996年5月のことでした。当時のカードの表面には「(社)日本腎臓移植ネットワーク」と記載されています。手元に当時の新聞記事がありますが、ホテル日航大阪で発表されたことが書かれています。デザインしたのは、当時私が勤務していた兵庫医科大学のすぐそばにある鳴尾中学の女子生徒さんであったと記憶しています。

その後、多くのデザインが諸方面から発表され活用されるようになりました。意思表示の場が運転免許証、健康保険証、マイナンバーカードへと広がったことは皆様ご存じの通りです。

先日の幹事会の席で意思表示が話題になりましたが、免許証の更新の時に裏面に意思表示欄があることの説明を受けているだろうかというものです。私自身は正確には覚えていませんが、説明がなかったように思います。マイナンバーカードにも意思表示欄があるのですが、やはり何らかの説明はなかったように思います。(記憶がないだけかもしれません)

現在、臓器提供の意思表示をしている人は人口の1割程度とされており、決して高い数値とは言えません。「移植医療に関する世論調査(令和3年9月)」によれば臓器移植に関心があると答えた人の67.2%は「保険証や免許証の裏に意思表示欄があったから」をあげています。

この欄の記載を話題にすることだけでも意思表示推進につながると思います。このような草の根的な活動はいつでも、どこでも出来ることです。皆様も何かの折に運転免許証やマイナンバーカードの意思表示欄を話題にあげてみてはどうでしょうか。



COLUMN
コラム no.4

異種移植に注目
～ブタ腎移植はドナー不足対策の切り札となるか～ まつもと泌尿器院長 松本修

腎移植医療の最もホットな話題はブタの腎臓を移植する異種移植でしょう。2024年3月に米国でブタの腎臓を末期腎不全患者に移植する世界初の手術が行われ、2025年5月までに4例の手術が行われました。ドナーのブタはベンチャー企業が作成した遺伝子変換ブタです。拒絶反応を抑制し、ブタ由来ウイルス感染症の持ち込みを防止する目的で多数箇所の遺伝子編集をしています。4例の経過はかならずしも良好ではありませんが、一定期間良好な腎機能を維持できたと報告されています。本格的な臨床試験が今後開始される予定で、症例を重ねることで免疫抑制法の改良などによる成績向上が期待されます。米国でも腎移植ドナー不足が深刻で、ブタ腎移植が解決への切り札と期待されています。簡単ではないでしょうが、5年後の本格的な臨床導入を目指しているそうです。日本でも遺伝子変換ブタを扱うベンチャーが立ち上げられ、ブタの腎臓をサルに移植する異種移植の研究がスタートしています。重症の腎臓病の胎児にブタ腎移植を行う計画をしている国内施設もあります。ブタ腎移植のトップランナーは日本人(ハーバード大の河合達郎教授)でもあり、国内外の今後の動向を注目していきます。

35周年記念講演会

おさこ小児科医クリニック 院長
兵庫腎疾患対策協会 幹事 尾迫貴章

当会は1990年の設立以後、県下における腎疾患の総合医療体制の推進や予防、血液浄化に関する知識の普及等を目的に活動して参りました。設立20周年を目前にした2009年には、活動のもうひとつの主題である『臓器移植に関する知識の普及啓発』を目的に、移植大国スペインで毎年開催される TPM advanced international course に、初めて受講者を派遣しました。

以後2015年までの間に県下で臓器提供に関わる医療従事者10名を派遣し、帰国後の彼らは県下を中心に研修会開催を重ねながら、臓器提供推進に関わるリーダーとして県内外に活躍の場を広げていきました。今回は当会設立35周年を迎えるにあたり派遣事業の振り返りおよび今後の方向性を検討したく、国内で活躍されている派遣事業の OB・OG 2名にご講演いただきました。僭越ながら、当会吉永会長から座長の銘を受けました派遣事業 OB(2期生)である私が当会を代表し、ご講演の内容を報告させていただきます。

渥美生弘先生（浜松医科大学救急災害医学講座教授）には『患者の思いに応える』というテーマでお話しいただきました。渥美先生は、2010年に派遣事業2期生として TPM コースに参加されて以後、基幹病院・大学・学会等の臨床・学術領域の中心でご活躍されています。患者・家族の臓器提供希望に応えることができなかった経験から自身には臓器提供の推進は不可能と感じたこと、しかし TPM コースへの参加で医療の一端としての希望を臓器提供に見出せたこと、派遣事業 OB・OG たちと開催した研修会を通じて共通の目標・言語を持つ community を構築する重要性を感じたこと、院内臓器提供対策室長として主治医ではない立場からの家族対応でより良い終末期対応ができたこと、早期から患者・家族ケアを開始することで『終末期の質』が劇的に改善したスペインでの経験を元に、重症患者・家族支援チームや院内臓器提供サポートチームを整備されたことを、ご自身の経験を振り返りながらお話しいただきました。結果、臓器提供とは終末期の患者・家族の思いに応えることであり、臓器提供の体制整備は救急医療の改善につながると、述べいらっしゃいました。

吉川美喜子先生（厚生労働省健康生活衛生局難病対策課移植医療推進室室長補佐）には『移植医療推進の行政の取組』というテーマでお話しいただきました。吉川先生は、2012年に派遣事業4期生として TPM コースに参加されて以後、行政・国政の立場でご活躍されています。派遣当時に在職されていた神戸大学医学部附属病院腎・血液浄化

センターではレシピエントのみならず生体ドナーの管理を経験する中で、TPM コース参加後は渥美先生同様に移植医療普及のためには臓器提供の体制確立が必須と感じ、移植学会や救急医学会・集中治療医学会などに活躍の場を広げたのち、厚労省に入省されました。以後精力的に取り組まれている『地域連携体制』『臓器提供に係る診療報酬改定』『移植コーディネーター人員確保』『法的脳死判定を含む 改正臓器移植法』の改正について、具体的な数値を提示いただきながら解説いただきました。

お二人のお話から、派遣事業 OB・OG の活動が、臓器提供に係る“共通言語”として全国に広がり各地で開催されている研修会の基盤になるなど、国内の臓器提供のレベル引き上げにつながったこと、その結果行政を動かし、地域での community 形成を促進し連携体制構築につながった等の成果が明らかになりました。

しかし一方で、県下では誰一人取りこぼすことなく意思確認をおこなえる community 構築には至っておらず、課題解決のためにも思いを同じにする多数の病院を繋ぐ役割を当会や派遣事業 OB・OG が今一度奮起すべきかと感じた講演会でした。



幹事就任のご挨拶

エアー・ウォーター
アエラスバイオ(株)代表取締役 菊池耕三

このたび、吉永会長からお誘いを受け、兵庫腎疾患対策協会の幹事に就任させていただくこととなりました菊地耕三です。長きに渡り兵庫県の腎疾患に対する総合治療体制の推進に寄与している団体である「兵庫腎疾患対策協会」の幹事に就任させていただくこととなり誠に光栄に存じます。

幹事就任にあたりまして一言ご挨拶をさせていただきます。

私は1993年、ご縁あって当協会の助成を受け米国の臓器あっせん機関 United Network for Organ Sharing (UNOS) に脳死臓器提供と米国での臓器あっせんシステムの勉強に行かせていただきました。当時 UNOS の理事長であられた Gene Pirce 氏のご自宅に下宿しながらバージニアを拠点にフロリダ、アリゾナ、アラバマ、ペンシルベニアの移植施設や OPO(臓器獲得機関)で脳死臓器提供・臓器分配・臓器搬送を体験できたことは今でも私の大きな財産です。

この経験が基となり、当時国会に提出されていた臓器移植法案の成立を見込んで進められていた臓器移植ネットワー

クの設立、脳死臓器提供の在り方、臓器分配のアルゴリズム、臓器搬送システムの構築などに携わり、新しくスタートした臓器移植ネットワークの移植コーディネーターとして活動させていただくことができました。中でも、第一例目の脳死臓器提供・臓器移植は30年以上がたった今でも鮮明に記憶に残っており思いを馳せることができます。

理由あって、臓器移植ネットワークを退職してビジネスの世界に転身し、現在は再生医療の研究開発会社を運営しています。グループ会社が手術室の設計施工や医療機器の開発などを手掛けていることもあり、移植医療や腎臓疾患に対して何かお役に立てることがないものかと常々考えておりました。

医療の現場からは長く離れており、移植医療に関しては浦島太郎状態です。微力ではございますが、協会の目標の達成に貢献できるよう尽力してまいりますので、皆さまのご支援、ご指導を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

COLUMN コラム no.5

「90歳の私の眩き」

眼科医 安井 多津子

佐藤愛子著「90歳 何がめでたい」のエッセイを読んで、今の私は全く同感である。

昭和9年生まれの私は、国民学校に入学してすぐに大東亜戦争が始まった。戦争は、連戦連勝で喜んでいると、いつの間にか第二次世界大戦となり、やがて敗戦を迎える。子供乍らに天皇陛下の玉音放送を聞いた時には、敗戦の意味も分からず、もう戦争は終わったんだー、だったらあの美味しい銀シャリ(白米のごはん)が食べられると、嬉しく思った記憶がある。

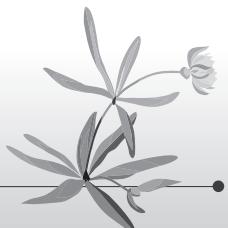
しかし程なく、米国の進駐軍(後に駐留軍となる)がやってきて、敗戦国の我が國でやりたい放題。婦女子の凌辱はもとより、道を歩いている我々市民も、トラックに乗った黒人兵に罵声を浴びせられたり、唾を吐きかけられたり、頭を蹴られたりしたものである。このような状況から、軍事力を持たない国が独立国として自立するには経済力しかないと、我々のお父さん、お母さん世代の涙ぐましい努力のお陰で、今日の日本に作り上げてもらえたのである。

そして、このような平穏な時代が続き長寿国となった今、日本人は総健康志向である。90歳までの健康長寿を保つためには、どのような生き方をすればよいのか?と巷では有識者、専門家、高齢者等の諸説が飛び交うが、所詮同じような発想である。いま、90歳まで何とか元気で来られた私の体験から云うと、「好きな時に寝て、好きな時に起きて、好きな物を食べ、好きな物を飲み、好きな時に出掛ける、そして何より嫌なことはしない、忘れる事にする」。要するに、勝手気ままに生きる事につきるのではないでしょうか。

良寛禅師曰く、

「災難に逢時節には災難に逢がよく候」「死ぬ時節には死ぬがよく候」

そしてこのように、自然の摂理に従って生きるのが良ろしかろうと思っている。



事業報告

2024 年度

(2024 年 5 月 1 日～2025 年 4 月 30 日)

- 1 第34回総会開催(2024年7月27日 神戸ポートピアホテル)
- 2 35周年記念講演会開催
＊渥美 生弘 医師 「患者の思いに応える」
＊吉川 美喜子 医師「移植医療推進の行政の取組」
- 3 会報『Gift of Life』Vol.32 発行(6月)
- 4 コーディネーターの兵庫県下学校への臓器移植出前講座支援
配布する啓発グッズ(アクリルチャーム)を制作配布(500個)
- 5 ホームページバナー広告 2024年度募集、掲載
(2025年1月)
- 6 関連団体の主催する腎疾患対策、腎移植のための講演会、シンポジウム、啓発事業などに協力する
① 兵庫県健康財団主催
令和6年度「いのちの勉強会」後援
② 兵庫腎友会主催
「兵庫慢性腎臓病シンポジウム」後援
(2025年3月16日 三木市立市民活動センター)
- 7 創立30周年記念誌
「設立30年を経て～そして未来へ～」発行

事業計画(案)

2025 年度

(2025 年 5 月 1 日～2026 年 4 月 30 日)

- 1 第35回総会開催(2025年7月19日 ホテル竹園芦屋)
特別講演会「終末期の選択肢としての臓器提供(仮)」開催
講師 永嶋 太 医師 公立豊岡病院 但馬救急救命センター長
- 2 会報『Gift of Life』Vol.33 発行
- 3 関連団体、兵庫県の移植コーディネーターへの支援
- 4 ホームページバナー広告 2025年度募集、掲載
- 5 当協会の目的とする腎疾患対策、腎移植推進のための啓発事業を企画実行する
- 6 関連団体の主催する腎疾患対策、腎移植のための講演会、シンポジウム、啓発事業などに協力する



2025～26 年度 兵庫腎疾患対策協会 役員・幹事

名誉会長 神戸大学名誉教授
医療法人敬愛会 西宮敬愛会病院 名誉院長 守 殿 貞夫

会長 医療法人協和会 副理事長 吉 永 和 正

副会長 医療法人 坂井瑠実クリニック 理事長

坂 井 瑠 実

副会長 兵庫医科大学特別招聘教授
てらおクリニック

野 島 道 生

幹事 いしむら腎泌尿器クリニック院長
神戸大学泌尿器科非常勤講師
石 村 武 志

兵庫県臓器移植コーディネーター
今 村 友 紀

おさこ小児科クリニック 院長
尾 迫 貴 章

エアー・ウォーター
アエラスバイオ(株)代表取締役
菊 池 耕 三

兵庫県立西宮病院
泌尿器科部長 / 腎移植センター部長
岸 川 英 史

兵庫医科大学 脾・透析内科教授
血液浄化センター長
倉 賀 野 隆 裕

兵庫県臓器移植コーディネーター
午 堂 晴 菜

兵庫県臓器移植コーディネーター
杉 江 英 理 子

兵庫県臓器移植協議会 事務局長
兵庫腎移植の会 副会長
高 見 敬 一

医療法人 たけだクリニック 理事
竹 田 雅

医療法人永仁会 理事長
永 井 博 之

兵庫医科大学
内科学 / 脾・透析科 准教授
長 澤 康 行

兵庫医科大学 名誉教授
特定医療法人五仁会 住吉川病院 名誉院長
中 西 健

神戸大学 名誉教授 医療法人 一陽会
服部病院 腎臓内科部長兼透析室センター長
西 慎 一

(有)芦屋川プランニング代表取締役
国際ソロプチミスト神戸東
八 馬 富 久 子

神戸大学大学院医学研究科
腎泌尿器科学分野 特命准教授
兵 頭 洋 二

神戸大学学長
藤 澤 正 人

NPO法人 兵庫県腎友会 会長
松 菲 理 恵 子

まつもと泌尿器科 院長
松 本 修

眼科医
安 井 多 津 子

兵庫医科大学 泌尿器科 講師
腎移植センター副センター長
山 田 祐 介

兵庫医科大学 泌尿器科 主任教授
腎移植センター長
山 本 新 吾

国際ソロプチミスト神戸東
代表担当幹事

会計監査 国際ソロプチミスト神戸東会長